

# 経済・金融 フラッシュ

## 鉱工業生産 21 年 11 月 – 供給制約 の緩和に伴い自動車生産が急回復

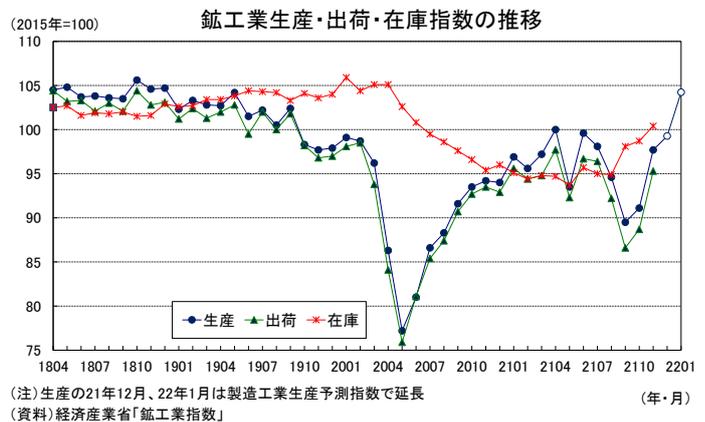
経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 10 月の生産は前月比 7.2% の高い伸び

経済産業省が 12 月 28 日に公表した鉱工業指数によると、21 年 11 月の鉱工業生産指数は前月比 7.2% (10 月：同 1.8%) と 2 ヶ月連続で上昇し、事前の市場予想 (QUICK 集計：前月比 5.0%、当社予想も同 5.0%) を上回る結果となった。出荷指数は前月比 7.4% と 2 ヶ月連続の上昇、在庫指数は前月比 1.7% と 3 ヶ月連続の上昇となった。

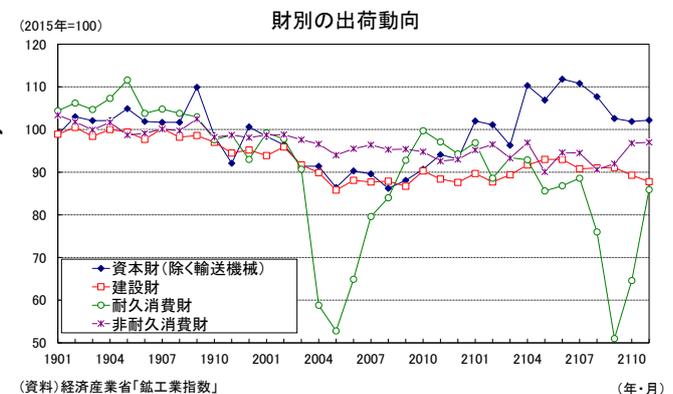
11 月の生産を業種別に見ると、世界的な半導体不足と東南アジアからの部品調達難の影響で 7 月から 9 月までの 3 ヶ月で 4 割以上落ち込んだ自動車が、供給制約の緩和に伴い 10 月の前月比 15.9% の後、11 月は同 43.1% と伸びが急加速した。自動車生産の水準は 6 月の 97.9% まで回復した。



財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷指数 (除く輸送機械) は 21 年 7-9 月期の前期比▲2.5% の後、10 月が前月比▲0.7%、11 月が同 0.3% となった。また、建設投資の一致指標である建設財出荷指数は 21 年 7-9 月期の前期比▲1.7% の後、10 月が前月比▲2.0%、11 月が同▲1.7% となった。

GDP 統計の設備投資は 20 年 10-12 月期から 21 年 4-6 月期まで 3 四半期連続で増加した後、7-9 月期は前期比▲2.3% の減少となったが、企業収益の改善を背景に設備投資は基調としては持ち直しの動きが続いており、10-12 月期は増加に転じる可能性が高い。

消費財出荷指数は 21 年 7-9 月期の前期比▲7.3% の後、10 月が前月比▲2.0%、11 月が同 11.9% となった。11 月は自動車の高い伸びを反



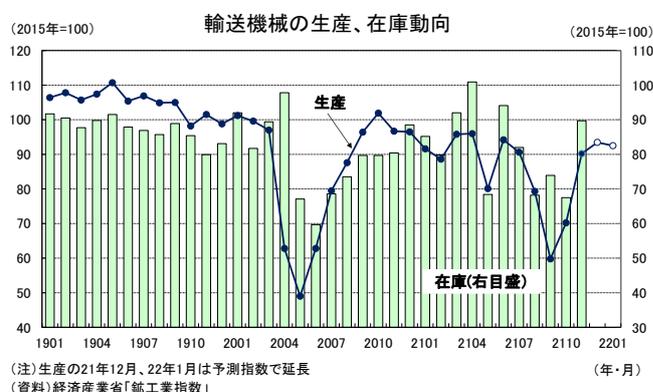
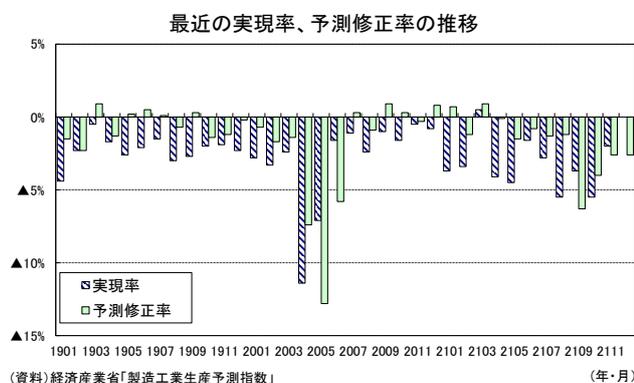
映し、耐久消費財が前月比 33.0%の急上昇となった（非耐久消費財は同 0.2%）。

GDP 統計の民間消費は 21 年 7-9 月期に前期比▲1.3%の減少となったが、10 月以降は緊急事態宣言の解除を受けて外食、旅行などの対面型サービス消費が急回復していることに加え、供給制約の緩和に伴い自動車も高い伸びとなっている。現時点では、21 年 10-12 月期の民間消費は前期比で 3%近い高い伸びになると予想している。

## 2. 10-12 月期は 2 四半期ぶりの増産へ

製造工業生産予測指数は、21 年 12 月が前月比 1.6%、22 年 1 月が同 5.0%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（11 月）、予測修正率（12 月）はそれぞれ▲2.0%、▲2.6%であった。

予測指数を業種別にみると、10 月、11 月と高い伸びとなった輸送機械は 12 月が前月比 3.6%、22 年 1 月が同▲0.1%となっている。12 月に入り、部品調達難の影響で一部の工場が再び稼働停止となっていることもあり、自動車生産の回復はいったん足踏みとなる可能性が高い。



21 年 11 月の生産指数を 12 月の予測指数で先延ばしすると、10-12 月期の生産は前期比 2.0%となる。生産実績が計画を下回る傾向があることを考慮する必要があるが、2 四半期ぶりの増産はほぼ確実とみられる。

先行きについては、10-12 月期の生産を牽引した自動車の回復ペースは鈍化するものの、世界的な設備投資需要の回復やデジタル関連需要の強さを背景に、生産用機械、電子部品・デバイスなどが堅調を維持することにより、鉱工業生産は持ち直しの動きが続くことが予想される。